

① 白米
② 晴らす
③ 市立

④ 目前
⑤ 一戸

2
1 A イ
B エ
C ア
2 人
に

3 I お客さ
うかも

※3I 完答

II 新商品

4 ア 2
イ 1
ウ 1

3
1 A イ
B ア
C ウ

2 ① エ
④ イ

3 ② ウ
③ 春

4 あわてんぼ

5 イ

配点	
①	各2点×5=10点
②~③	各5点×18=90点
<計>100点	

- 1 小学校二年生までに学習した漢字から出題している。①「白米」はむずかしい字ではないが、一点一画でいねいに書こう。
 ②「晴」は右下の部分を「日」や「目」のようにしないこと。③「シリツ」は「市立」と「私立」の区別をきちんとしよう。④「前」の上の部分を「くさかんむり」にしないこと。⑤「戸」は「家。家屋」という意味もある。

2

- 1 A (A)の後に書かれていることはその前に書かれていること、具体的な例なので「たとえば」がはいる。
 B (B)の前では「店を出すのをやめたほうがいい」と書いていて、後では「お店を出すべきだ」と書いていることから「ぎやくに」がはいる。
 C (C)の後にはその前に書いていることからみちびかれる意見が書かれていることから「だから」がはいる。
 2 なじみがないことばについて問われた場合は、本文のほかの部分で説明されていないかとさがしてみる。そのときに、――線のことばだけでなく、その前後のことばも手がかりにしてみよう。◎の文「商品が() ()のかどうか」と本文一行目にある「どんな商品が人にもとめられているのか」がにていることに気づくかどうかポイントになる。

- 3 I ――線②をふくむ文が段落のはじめにあるので、その理由は後につづく部分で説明されているだろうと考えてさがしていく。◎の文「いつかあきらまれて、別の店に() () しないから。」とくらべながら見ていくと、「人気のラーメン店でも、ずっと食べていたらあきらられちゃうということがあるよね。そうしたら、おなじくらしいの、おいしいさなのに、新しいお店にお客さんがながれてしまうかも」とあって、「しれないから」につづく部分(~~~~)が見つかる。
 II 「何をしなければならぬ」のかということ問われている。まずは――線②がある段落に書かれているだろうと考えてさがしてみると、「需要をつかむために新商品を開発するような工夫が必要なんだ」とある。

- 4 ア 本文の三段落目にある「人気のラーメン店でも、ずっと食べていたらあきらられちゃうということがあるよね。そうしたら、おなじくらしいの、おいしいさなのに、新しいお店にお客さんがながれてしまうかも」とあわない。
 イ 本文の二段落目にある「その場所にあふれるほどのお客さんがいるんだったら、ぜひそこにお店を出すべきだ」にあう。
 ウ 本文の一行目の内容にもあうし、本文全体で書かれている内容にもあう。

3

- 1 A (A)の後で、うめの花がとうむしをさそっていることに注目すると「ね」がはいる。
 B (B)の後で、うめの花が「きれい」と感動していることから「まあ」がはいる。
 C (C)の前にあるとうむしのおねがいに対する返事であるから「ええ」がはいる。
 2 ① 「あわてんぼ」のせいで、いまひどい目にあっているのだから、後悔していると考えられる。
 ④ てんとうむしが自分のマフラーをうめの花にあげるときのようなすである。うめの花のおかげでほかほかとねむることができたのだから、感謝の気持ちからの行動と考えられる。
 3 ② 「すべすべ」「きんきんとひかかって」「つめたい光をふらせる」をイメージさせるものは「氷」だろう。
 ③ 「あそこなら、お日さまが一日じゅうあたっていているから、きつとすっかり【③】です」とある。「お日さまが一日じゅうあたっていている」からどうなのかと考えると、「明るい」「あたたかい」といった内容だろうと見当がつく。また「すっかり」から「あそこ」はほかのところとはちがうことが考えられる。そして、本文のはじめに「春の、はじめの、話です」とあった。以上のことから、「あそこ」はすっかり【春】になっていると考えられる。
 4 てんとうむしとうめの花が友だちになれたのは、どちらもまだ春になっていないのに春だと思ってしまった「あわてんぼ」だったからである。
 5 「こんど、てんとうむしがあそびにきたとき」はほかの白いうめの花もたくさんさいているだろう。そんなときにほかのうめの花にはない「赤いマフラー」が何になるのかと考える。